

博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	關 智子
論文題目	逸脱と侵犯 サラ・ケインのドラマトゥルギーに対する理論的研究
審査要旨	
<p>1999年に28才の若さで命を絶った英国の劇作家サラ・ケインは、戯曲の形式から逸脱し、上演不可能にも見えるテキストを、しかし演劇のために書き続けた。本博士学位請求論文は、未刊行の初期作品を含むケインの全戯曲作品を丹念に読み解き、「逸脱と侵犯」の相のもとにそのドラマトゥルギー的特徴を分析し、そこに見られる反演劇的と呼びうる演劇性を論じるものである。</p> <p>本論文(全231頁)は全9章と結論、さらに作者略歴と引用文献一覧から構成される。本論文はまず序において、ケインの経歴および全作品の概要を紹介し(第1章)、先行研究と論文の目的・方法について述べる(第2章)。第1部では、演劇の存在論的準拠点である「今、ここ、私」をめぐって、大きなゆらぎを見せる時間性・空間性(第3章)と登場人物概念(第4章)、台詞・ト書きから構成されるはずの戯曲形式の問題化(第5章)に着目して、横断的にケイン戯曲に見られるドラマトゥルギー的特異性を分析する。第2部においては、本来ならばプライベートな領域に使用が限られるはずの「汚い」表現(第6章)、暴力の表象、さらに加害者・被害者・傍観者が入れ替わりうることの意義(第7章)、三人称の語りの戯曲内への導入と行為遂行性(第8章)、呼びかけの対象の不在と不在ゆえの希求(第9章)といった、全体としてパブリック/プライベート概念を補助線として用い、かつ章ごとに異なるテーマ分析がなされた後、結論へと導かれる。</p> <p>公開審査会は2021年6月5日にZoomを用いて開催された。提出者・審査委員のほかに20名ほどの聴講者が参加し、本論文に対する関心の高さを窺わせた。審査会においてはまず、提出者がパワーポイント提示資料に基づいて本学位請求論文の概要を説明し、その後、それぞれの審査委員との間で質疑応答を行い、最後に全体で討議するかたちをとったが、予定の2時間を大幅に超過して活発な議論が交わされた。</p> <p>本論文に関して審査委員が一致して認めた長所とは、本論文が、十分な質と量の文献(日本語、英語以外の外国語文献も含まれる)を駆使しながら、時間をかけて完成された労作であることである。研究者にもその存在が十分に知られていない初期作品(出版や上演を禁止され、英国の大学図書館において閲覧のみ可能、という限定的な状態で公開されている)までも含めて、ケインの全作品を考察の対象とし、緻密かつ高水準の分析と考察を行っていることもまた評価された。第1部のドラマトゥルギー分析は手堅く説得力のあるものであり、第2部のテーマ分析の着眼点や発想もユニークなものであった。とりわけ初期作品、前期作品、後期作品とケイン作品を分類したとき、後期作品に見られる特徴が、初期作品においてすでに見られるものであって、劇作家が螺旋を描くようにして原点に回帰していることを、説得力を持って論証した点は高く評価される。本学位請求論文をもとに、日本語においてはもちろん、英語においてもこの研究成果が出版されることが待望される。</p> <p>だが、細かく見れば論文にはいくつかの課題も残ることが各委員より指摘された。最後に時間が足りなくなったのであろうが、結論はいささか短すぎたし、同じ理由で推敲が十分とはいえなかったのであろう、配布された正誤表に記載されたほかにも問題が残った。依拠する文献にやや偏りが見られること、章によって議論の奥行きや水準にばらつきがあること、横断的な分析を行ったがゆえに個々の作品分析が甘くなりがちであったこと、英語から日本語への翻訳に関しても、とこ</p>	

氏名 關 智子

ろどころに不正確な箇所が見られることなども、複数の審査委員から指摘された。別の審査委員からはケイン作品にテレビが影響している可能性を提起された。ケインの登場人物はしばしば心を病み、痛みを訴えるのだが、そこで主題化される、自我と世界との関係の崩壊とは遠近法の崩壊のことでもあって、他者や環境との遠近感がうまくとれずに苦しむ登場人物にとって、「痛み」とは自我と世界を媒介する最後の接点なのではないかという、本論文におけるケイン作品の読みをさらに深める解釈が、締めくくりの全体討議において示されるに至ったことが示すように、得るものの多い公開審査会であった。

このように、問題点や課題は残るとしても、本学位請求論文はそれを補って余りあるほどのすぐれた論点と議論を提示しており、日本語圏においてはもちろん世界的に見ても数少ない包括的かつ先駆的なケイン研究であること、同時に、方法論的に見ても、演劇学におけるテキスト研究をさらに前進、深化させるものであることについては、すべての審査委員が認めるところであった。よって、これが博士学位を授与するにふさわしい論文であると、本審査委員会は全会一致で判断するに至った。

公開審査会開催日	2021年6月5日			
審査委員資格	所属機関名称・資格	氏名	専門分野	博士学位
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	藤井 慎太郎	フランス語圏演劇	
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	岡室 美奈子	英語圏演劇	博士(アイルランド国立大学ダブリン校)
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	小田島 恒志	英国演劇	
審査委員	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院・教授	谷岡 健彦	英国演劇	
審査委員	明治大学文学部・教授	野田 学	英国演劇	